

用瀬町社地区 地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和7年7月18日(金) 19時00分～20時00分
- 2 場所 社地区公民館
- 3 出席者 地区17名 市10名【市民生活部長（協働推進課）、交通政策課、用瀬町総合支所長（地域振興課、産業建設課）】
- 4 テーマ 共助交通について
- 5 概要

【地元あいさつ】

社地区、用瀬町全体で、住民の高齢化、買い物環境の減少、公共交通の減少が進行し、過疎化がどんどん進んでいる。これらを解決するためには、生活環境を整え、できるだけ地域に留まっていたく、そして地域に来ていただくことを考えていく必要がある。今日はそのようなことをテーマに話を進めていきたい。

【市民生活部長あいさつ】

地域づくり懇談会は、令和5年度から趣旨を少し変え、地域の未来づくり懇談会として開催し、子どもたち、次世代に引き継ぐまちづくりについて積極的な意見交換をさせていただいている。

今日は共助交通がテーマということで、今まさに取り組んでいる内容について、みなさまが末永くお使いいただけるような前向きな意見交換になればと思っている。

テーマ「共助交通について」

【地元(説明)】

《地域の取り組み》

共助交通「いきいき社バス」は、鳥取市有償バスが令和4年3月末で終了したことに伴い、令和4年4月1日から、10人乗りのワゴン車1台を鳥取市に購入していただき運行を開始した。当初は、自由に外出できない高齢者などのために、用瀬町内の希望地、総合支所、郵便局、銀行、医療機関、当時あったスーパーマーケットへの移動手段として、利用しやすい時間帯を狙って運行をしていた。順調に運行していたが、令和5年9月にトスク用瀬店が閉店となり、話し合いの結果、令和5年10月2日より、1便のみSマート河原店まで延伸した。現在、用瀬地区や大村地区の住民も「いきいき社バス」を利用しており、いきいき社まちづくり協議会が用瀬町全体を支えている状況である。

《実績報告》

一般乗客の1日平均乗車回数は、令和4年度は3.66回、令和5年度は3.80回、令和6年度は4.88回と順調に増えている。1日の平均走行距離は、令和6年度が約130kmであった。Sマート河原店への運行日数は、ひと月あたり10～17日で、令和6年度は延べ192人の利用があった。また、保護

者からの要望により、第1便の前に通学児童を乗せ用瀬小学校まで片道運行している。現在は社地区で2名、大村地区で3名が利用している。

《課題（アドバイスをお願いしたいこと）・意見交換》

- ① まず、運転手については、当初から3人体制でやっている。これまでに体調不良等を理由に3名の方が辞められたが、その都度地域の方々に声をかけて何とか体制を維持してきた。運転手の確保についてアドバイスをいただきたい。
- ② つぎに、他地域との連携について、市の方で年2回ほど、定期的な意見交換の場を開催されているが、もう少しそういった場所を提供してほしい。例えば、南部地域で形態の似ている国英地区、散岐地区、社地区だけで意見交換を行う場があってもいいと思う。
- ③ 最後に管理業務について、現在、社地区公民館職員で事務を行っているが、負担が大きい。事務負担や運行管理について簡素化、省略できることがあれば教えていただきたい。

【交通政策課】

- ① 現在、鳥取市内では7つの地域で共助交通を運行しており、どの地域でも運転手の確保が課題となっている。運転手になっていただく方に居住地の制限はないため、社地区だけで探すのではなく、用瀬町全域で声掛けをしてみるのもいいと思う。また、運転手を希望される方がいた場合には、必須である講習を早めに受けていただき、運転手の候補として確保しておくこともいいと思う。
- ② 鳥取市内で共助交通を運行している7つの地域が集まり、年に数回、会議を行っている。今回ご要望をいただいたので、南部地域で運行開始時期が近く、形態の似ている地域だけが集まり、具体的な話をする場も企画してみたいと思う。
- ③ 管理業務については、例えば国に提出する報告書の作成や事務手続きについて引き続き鳥取市がサポートしたいと考えているし、ダイヤやルートを決めるために社地区公民館職員が作成している集計資料についても、法律で定められたものではないため、どう減らしていくか相談できればと思う。また、昨年より、運行前の点呼や事務処理の一部について、日野自動車に入っただき、負担が軽減されたのではないかと考える。ただ、社地区公民館は紙、日野自動車はデータでやりとりしており、両方あって大変な部分もあると思う。今後スリム化できるよう日野自動車含めて検討していきたい。

【地元】

運転手の立場としては、他地域の運転手と話し合いをしてみたい。いろいろな問題が毎日のように起きるため、こんなときはどうしているのかなど情報共有を図りたいと思う。

また、運転手をしてみて大変だと感じたことは、人を乗せていること、特に朝の小学生を乗せての運行である。子どもたちを乗せて事故を起こしてはとんでもないことになると思うと覚悟を決めて運転している。人の命を預かっていることを重く感じており、冬場の凍結や狭い道などが心配で

ある。ただし、自分が気をつけていても事故は起きるため、万が一、人身事故等が起きた場合に鳥取市も入っていただけると心強い。

【交通政策課】

運転手同士の話し合いの場について、現状そういった場はないが、不安や悩みを共有することで問題解決を図ることもできると思うので、こういった形で行うのがよいか相談させてほしい。

また、事故時の対応については、基本的には保険に入っているのものでそちらでの対応となるが、事案によっては鳥取市も対応したいと考えている。また、日野自動車とも事故対応についての契約を結んでおり、サポート体制を整えている。

【地元】

運転手をしていると、共助交通ができて良かったと高齢の方に感謝の言葉をいただくことがある。また、車内での会話が高齢者にとってのコミュニケーションの場ともなっており、非常に良いことだと感じている。ただ、共助交通のことが地域の方々にまだまだ周知できていないとも感じるため、引き続き鳥取市には支援をしていただきたい。

【交通政策課】

高齢の方にとってコミュニケーションの場となっていることは、民間のバス会社にはないプラスアルファの部分であり、まさに共助交通の良いところだと思う。今後も引き続き支援をしたいと考えている。

《買い物環境の今後について》

【地元】

令和5年9月30日をもってトスク用瀬店が閉店したことに伴い、鳥取県、鳥取市、JA鳥取いなばに何とかならないかとお願いをしたが、2年経ってもなかなか前進していない。令和7年5月28日に、用瀬町の農協組合員の方々に出席していただき、買い物環境を考える会の第一回目の会合を開いた。我々としては、佐治地域から買い物に来て一番利便性の高いJA鳥取いなば用瀬支店の土地に、来年度、食品スーパーがどこか参入店舗展開してくれることを望んでいるがなかなか難しい現状であるため、鳥取市にも表に出ていただき話を進めていきたいと考えている。

【市民生活部長】

トスク閉店後、佐治では地元法人が移動販売を始められ、用瀬では共助交通を河原のスーパーまで延伸していただいている。また、用瀬地域の移動販売が回数を週2回に増やし、買い物支援に加えて高齢者の安否確認、取次支援などの見守り機能をもってご活動いただいております、県や市でもその支援を行っている。

トスク用瀬店の閉店にあたり、西川会長を中心に買い物環境を考える会を立ち上げられ、JAに働きかけていることは支所を通じて承知している。JA側からも引き続き承継先を探していると

伺っており、その交渉状況を注視している。無店舗地域となった他地域では、地域の方が継承先を探されたというところもある。用瀬地域は移動販売や既存店舗があり、その既存店舗でも精肉や野菜、鮮魚も販売されている。その事業活動にも影響がないように鳥取市としても配慮していく必要がある。あくまでもJAの継承先の事業者が決まったら、その状況に応じて適切な支援を行っていきたいと考えている。

《その他》

【地元】

社地区のことではないが、用瀬地区で流しびなという行事をやっている。国の文化財に指定される一歩手前まできており、文化財課には早急に指定に向けての取り組みをしていただきたい。

【文化財課補足記載】

流しびなの文化財指定については、令和7年7月16日に京都の文化庁で調査方針等について協議を行い、調査の目的や方法について指導を受けたところです。現在、文化財課内で委員の選任や作業項目の整理など準備作業を行っており、令和8年度以降に国庫補助事業として調査を実施したいと考えています。民俗行事ですので、専門家だけでなく、実際に行事に取り組まれている方の参画が不可欠であると考えています。

実際の調査事業は2～3年の事業期間を要すると考えているところです。

【地元】

また、流しびな行事には県内外から多くの方が訪れ、その際にひいな橋を渡られる。実際に渡ると、塗装は剥がれ、色も褪せており、非常にみすばらしく悲惨な状況にある。ひいな橋の上流側に以前は中橋があり、これを撤去したらひいな橋の汚いところがますます目立つようになった。中橋を撤去したときに塗装の約束はしており、やりましょうということだったが、期日を設けてなかったこともあってなかなかやってもらえない。なんとか塗装をお願いしたいと担当課に伝えてほしい。

【用瀬町総合支所補足記載】

塗装が剥がれ怪我をする恐れのある個所については措置を講じますが、橋の塗装については方策を検討します。

【市民生活部長あいさつ】

共助交通のお話について、特に、運転手さんのお話や1人暮らしの高齢者のコミュニケーションの場となっているということを心に留めておきたいと思う。トスク用瀬店跡地のことも市としてもしっかり注視し、後方支援を行っていきたいと思っている。

また、防災の取り組み、共助交通の取り組みなど、いきいき社まちづくり協議会の取り組みは他地域のモデルにもなると思う。未来に向かって鳥取市も一緒にまちづくりを進めていけたらと思っている。